

会 議 録

日	令和5年8月18日(金)	時間	13:30~14:20	場所	糸魚川市民会館3階 会議室
件名	令和5年度 第1回糸魚川市地域自立支援協議会				
出席者	【出席者】 委員：斉木委員、大谷委員、岡尾委員、横澤委員、大久保委員、吉井委員、沖田委員 田中委員、野本委員、中村委員、岡田委員、岡崎委員、山本委員 事務局：地域生活支援センターこまくさ 内藤管理者 磯貝相談員 福祉事務所 磯貝所長、山岸次長、仲谷係長、岡野主査 【欠席者】 牛木委員				
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	0人

会議要旨

進行(事務局)

1 開会

要綱の規定により、委員の半数以上の出席であるため、本会は成立。

2 福祉事務所長あいさつ

連日猛暑が続いており、市で8月8~9日に市内の80歳以上の1人暮らし高齢者で介護保険サービス未利用のお宅を訪問し、熱中症に対する注意喚起を行った。約7割の方に直接注意喚起のチラシを手渡すことができ、状況の確認等を行った。

福祉事務所では、今年度、3年ごとに見直される障害福祉計画の策定年度となっており、令和3年度から3年間の事業実績やアンケートの分析、今後のニーズ把握などを進めている。

社会の流れが変わり、それに伴い、これからの福祉サービスも大きく変わっていく時期であり、先を読みながらの計画策定というのは容易ではないが、委員の皆様からのご意見をいただきながら進めてまいりたい。

また、計画策定の作業と並行し、この地域自立支援協議会の活性化を図るように努めており、その方策の一つとして、部会を再編し、個別の相談案件を協議会で吸い上げやすくなるような体制を組み直したところ。いろいろやりながら変わっていかねばいけないと思っており、ご意見をお聞かせいただきたい。社会資源は限られているが、顔の見える関係性を築けるところが糸魚川市の強みと思っている。

3 自己紹介

委員名簿により自己紹介

4 報告・協議事項

(1) 地域自立支援協議会について

資料No.1により事務局から説明

(2) 今年度の取組みについて

資料No.2により事務局から説明

(3) 第7期糸魚川市ささえあいプランの策定について

ア 策定スケジュール

イ 計画の位置づけ及び体系

ウ 第6期糸魚川市ささえあいプランの進捗

エ アンケート集計結果について

資料No.3～6により事務局から一括説明

(委員) ニーズ調査アンケートの「障害者への理解や差別解消が進んだと思うか」という項目で、地域・学校の評価が下がっているが、どのように分析しているか。

(事務局) 複数の質問項目からクロス集計を行い、どのサービスが不足していると感じている方の評価が低いのかという分析ができればよいが、回答者数が少なくクロス集計での評価が難しい。そのため、集計結果と現場のサービス提供状況を照らし合わせて、評価を行う必要があると思う。今回のアンケートでは、新たに「わからない」という回答を設けており、評価の際は、差し引いて比較分析したい。

(委員) 以前に比べると、糸魚川市の障害福祉は進んでいると感じており、アンケートであまり評価されていないのは不思議に思うが、集計結果を分析して、計画に活かしてほしい。

(事務局) こども療育部会では、保護者や当事者の希望・要望・要求が非常に高くなっているという現場の感覚が聞かれる。寄り添う支援が今非常に求められているが、最終的には自立への支援なのでどこまで寄り添えばいいのかという生の声がある。集計結果を評価する中で、必要な支援を現場の方と調整していきたい。

(委員) 資料No.5の障害福祉サービスの進捗状況で、実績値で0のサービスもあるが、現在需要がないため問題ないものもあるだろうし、需要があるにもかかわらず、見込値に達してないものもあると思うが、数字だけだと判断が難しいので、分析の部分があると理解しやすい。

(委員) 実績値が、本当はもっと希望があるがこれしか答えられていないのか、希望を全部受け入れてこの数字になっているのか、これしか受けられない体制なので実績はこれしかないということなのか、という分析で評価が変わってくると思う。ベースとしてサービスがたくさんできているが、希望に答えられていないため評価が下がることも考えられる。そのあたりの分析を行ったうえでの評価でないと次の計画につながらないと思うし、現場の者は、それを受けて動いていく必要があると思う。

(事務局) 確かに、サービス見込み量は、サービスをこれだけ必要だろうと見込んだ数字が計画に上がっていて、実績が及ばなかったということは、必要とされる量よりもまだ足りていないというのが単純な分析になると思う。計画策定時には、今のところサービス利用はないが、潜在的な需要を含めた数字なので、実績が達してないということはまだ足りてない部分だという評価をしている。

(事務局) ニーズ調査で、「障害福祉サービスを利用しているか、また今後利用したいか」という項目があり、こちらの数値も今後のサービス利用のニーズがあると捉えて、次期計画の見込み量に反映していきたい。

(委員) 「わからない」「無回答」の回答の捉え方で、数値が変わってくるので分析は難しいと思う。

(委員) 11月の半ばに予定されている第2回協議会では、分析・評価を行った計画素案が示されるということよろしいか。

(事務局) 今回の協議会を踏まえて、分析・評価の部分を事前に情報として提供させていただいた上で、次回の協議会に臨みたいと考えている。

(4) 意見交換・情報交換

なし

4 その他

事務局より、令和5年8月1日に、重度心身障害児者対応多機能型の事業所「ほっふ・すてっふ」が開設されたことが報告された。

5 閉会

以上